

働きづらさを抱えた人が働ける！ 分身ロボット窓口案内で 日本一あたたかい市役所を実現

たとえ寝たきりでも仲間と一緒に働けて、生きる希望が持てました

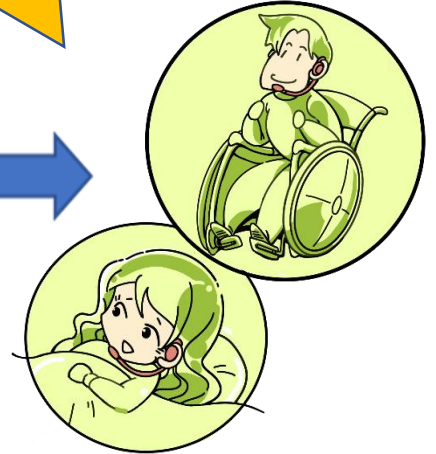
(分身ロボットで働いた当事者の声)

来庁者



OriHime (オリヒメ)

在宅案内スタッフ



分身ロボットが市民と市民をつなぎます

<解決アイデアの内容>

- ①案内アプリはスマートだけど、何だか冷たい感じがする
 - 分身ロボットOriHime (オリヒメ) を使った窓口案内
 - ICT×アナログで付加価値を高める
 - 来庁者が分身ロボットに話しかけると、在宅案内スタッフは最適な窓口を案内する
- ②案内アプリは使い方がわからない、検索ワードが少ない
 - 市民が必要としている情報を案内アプリにデータとして蓄積、窓口案内の改善に活用する
 - 検索ワードは市民目線で



<アイデアを提案する理由>

○なぜ分身ロボットを使うのか？

- それは、人の温かさを感じられる市役所窓口案内を実現するため
- ICTを活用して「今まで働けなかった人達」（潜在的労働力）を「行政サービスの担い手・納税者」へ転換することの社会的意義は大きい！



<深谷市と市民チームの連携状況>

- 窓口案内アプリが入ったiPadを使って検証
- 追加したい検索ワードを考えるワークショップ
- コミュニケーションツールを利用し、いつでもどこでもアイデアを共有

